

企画展

「BIB50周年 ブラティスラヴァ世界絵本原画展 —絵本の50年 これまでとこれから—」

4月8日(土)～5月28日(日)

2015年に創設50周年を迎えたブラティスラヴァ世界絵本原画展(通称BIB)は、スロヴァキア共和国の首都ブラティスラヴァで2年に一度開催される、世界最大規模の絵本原画コンクールです。

今回はBIB50周年を記念し、日本の歴代参加作品で絵本の50年を振り返るとともに絵本の最新動向をご紹介します。絵本原画と書籍で「絵本の50年のこれまでとこれから」をお楽しみください。



ミロコマチコ《オレとこいる》
BIB2015 金のりんご賞
©mirocomachiko

「篠原道生展」

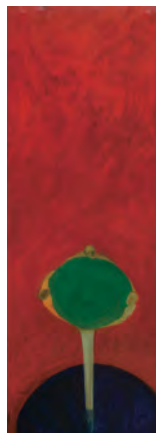
(同時開催:山本陽子、岡崎清一郎、春山清展)

8月5日(土)～10月22日(日)

篠原道生(1960-92)は栃木県足利市に生まれた画家です。彼の作品は静謐な抒情と幻想をたたえています。登場する少年少女は彼の分身であり、純粋な魂の象徴でもあります。また、彼は詩をいくつか残しましたが、それらには「絵を描いて生きていきたい」という切実な願いが込められています。本展は、約120点により早逝した画家の全貌に迫る回顧展です。

この度寄贈された山本陽子、岡崎清一郎、春山清の
作品も同時に展覧
いたします。

篠原道生 《無題》
1989年 アクリル・紙
個人蔵



2018年 1月13日(土)～2月12日(月)
足利市民文化財団所蔵品展
(特別展示室・展示室1)

2018年 1月27日(土)～2月12日(月)
足利市民文化祭優秀作品展
(展示室2・3)

2018年 2月17日(土)～3月4日(日)
第10回 足利展

2018年 3月10日(土)～3月25日(日)
第7回 足利市立美術館友の会展

「リアル(写実)のゆくえ —高橋由一岸田劉生、そして現代につなぐもの—」

6月17日(土)～7月30日(日)

江戸時代から徐々に将来された西洋画は、その科学的な写実技法により伝統的な日本の絵画と大きく異なり、当時の人々に衝撃を与えました。高橋由一は西洋の石版画と邂逅し、その迫真の描写に感動して洋画家を志しました。

今また細密描写による写実が注目されています。本展は、移入され150年を経た写実がどのように変化しました変化しなかったのか、日本独自の写実とは何かを作品により検証し、明治から現代までの絵画における写実のゆくえを追うものです。



高橋由一
《鮭》
油彩・キャンバス
山形美術館寄託

「吉増剛造展」(仮称)

11月3日(金祝)～12月24日(日)

吉増剛造(1939-)は、1960年代から現在まで、日本の現代詩をリードし続けてきました。その活動は詩や評論の領域にとどまらず、写真や映像、造形など多岐に広がり、私たちに魅了し続けています。

本展では、数十年におよぶ活動でつくられた代表的な詩作品の背景になっている、土地や文化、芸術などを探り、吉増の作品と共に、関連付けられる様々な作家の作品や資料を展示します。



吉増剛造
《ぼくの家の(古池)の蓮たちを仏蘭西のリオンにまで運んで行った日に、……》
多重露光写真 作家蔵

■特別展示室■

美術館受付前にある小さな展示室では、収蔵作品を中心に展示を行っています。

企画展に合わせた展示や、足利にゆかりのある作家の作品を展示します。